「ＡＩと人間」

北海道斜里高等学校　１年　　三浦　康毅

あなたはＡＩが自動運転する車と人間が運転する車のどちらを信用しますか？私は人間が運転する車を選びます。ただし、ＡＩが自動運転する車を否定しているわけではありません。なぜなら、運転に自信のない高齢者や重い障害により運転が難しい方々にとって、自動運転は生活するうえで欠かせない技術だからです。

近年の科学技術やＡＩの発展は、凄まじいスピードで進んでいます。現在、自動運転技術はレベル四と呼ばれる技術が一部で実用化されています。レベル四では特定の地域で完全なる自動運転が可能であり、世界的に見てもレベル四が実装されている国では事故率が大幅に減少しています。しかし、二〇一八年にアリゾナ州で、自動運転のテスト中の自動車が、歩行者の女性と衝突するという事故がありました。事故の原因は、機器のシステムエラーに加えて、テスト中の運転手がスマートフォンに夢中になり、前方の確認を怠ったからだと言われています。また、ＡＩによる自動運転は「環境」に強く依存します。なぜなら自動運転の車には大量のカメラやセンサーが使用されており、これらは強い雨や雪などの悪天候の時や、逆光に強くさらされてしまう時に、標識や周囲の情報を正しく認識することが難しくなるからです。つまり、環境によっては適切な判断が出来なくなるということです。先ほどの事故の話や、自動運転の可否が「環境」に左右されてしまうということは、運転をすべてＡＩに任せることの難しさや危険性を示唆しています。

ここまでの話を踏まえると、車の運転をはじめ、これまで人間が担ってきた様々な作業をすべてＡＩに任せるというのは、一概に正しいとは言えません。皆さんはどのようにすれば、ＡＩをより効果的に利用できると思いますか？私が思うに、ＡＩが得意なことはＡＩに任せ、人間にしかできない判断や、責任を伴う仕事は人間が行うのが良いのではないでしょうか？例えば、人間がすると時間がかかる大変な作業を「どうしようどうしよう」と言いながら取り組んでも事態は一向に好転しません。そのような場面ではＡＩの活用が効果的だと思います。反対に、ＡＩには難しい繊細な作業や責任・倫理観を必要とする判断は、人間が取り組むべきだと思います。

結局、これからの時代に求められるのはＡＩを効果的に利用することだと思います。効果的に利用するというのは、ＡＩにすべてを任せるという意味ではありません。すべてをＡＩに頼る世界ではなく、人間とＡＩが上手に手を取り合って、例として挙げた自動運転の分野以外にも、様々な分野で良いものを作っていく社会を築いていくことの重要性を、私は主張します。そして、ＡＩが進化する時代だからこそ、私たちは人間にしかできないことを、自信を持って続けていきたいと思います。